■ 2022.9.25　No249

脱原発情報

発行　双葉地方原発反対同盟　　責任者　石丸小四郎
970 － 8026　いわき市平童子町３－６　Ⅱ 903
TEL・FAX　0246-25-7737　携帯　090-4477-1641
E -mil：ishimaru19430106@gmail. com　ブログ「石丸日記」

甲状腺がん訴訟 第２回口頭弁論
更にもう1人の女性も加わり計７人になった！

（資料１）裁判は必ず勝つの思いを込めて！

日本最大の公害事件である東電第一原発過酷事故のため「甲状腺がん」になり損害賠償を求めた訴訟の第２回口頭弁論が９月７日東京地裁で行われた。

最初に被告東電側が示した「被ばく量が 100 ﾐﾘ Sv 以下では甲状腺がんにはならない」等、相も変わらぬ主張に対し原告側の反論を行われた。その後、原告２人目の意見陳述〔1〕が行われた。

終わりに裁判官が「意見陳述は年内限りにしたい」の主張に対し、残り４人と、このたび訴訟に加わった１人…計５人の意見陳述を是非行うよう強く求めた。しかし「年内の裁判は 11 月だけでで終わりにたい」との意向で全員の声を聞くのは難しいとの主張であった。更に、傍聴者が多く（157 名）大法廷で開くよう申し入れた。更に小法廷は音声施設もなく大きな声を出せない原告（喉の手術のため）に配慮するよう求めた。

意 見 陳 述　〔1〕

１．裁判官の皆さん！ 11 年間の私の経験を聞いて下さい。私は幼稚園の年長組の時でした。家で昼寝をしていたとき大きな地震に襲われました。母親と一緒に避難先のスクーリング場になっている病院で「どこからお越しですか？」と聞かれたので、家の場所を知らせたら、履いているクツを脱がされスリッパをはかされました。その時、対等な人とは見られていない疎外されているような感じがして、この時の経験がトラウマになり避難してきたことを隠すようになりました。

２．がんが見つかった時…中学生の時に学校の甲状腺エコー検査があり３回目の甲状腺検査でした。エコーを見ていた医師と看護士が何か話していました。診察が終わり教室に戻るとき、私の後に来た人はすでに終わっり、私は不安でした。

３．穿刺細胞診（甲状腺に細い針を刺して直接細胞をとる検査）とがんと分かるまで…この検査は忘れようとしても忘れられません。「あっ‥今から首に針が刺されるんだ！」と、細くて長い針が刺さったとき、余りにも激痛で、深いものがグサッと刺された感覚は今も忘れらけれません。どうして‥どうして…こんな痛い思いしなければならないのだろうか…心底思いました。

４．１～２回の手術のとき…手術後が辛かったです。２回目の手術で全て摘出し、右手が上がらいな後遺症がありました。

５．アイソトープ治療について…放射能を使う治療のため隔離され看護師から「近づかないで！」と言われ、自分が人との距離をとらなければならない事に大きなシュツクを受け、暗い気持ちになりました。これ以上話せません！

６．最後に…私は小学校に入るまえに原発事故に遭い、以来 11 年間、小さなアパートで避難生活を続けています。そして 13 歳でがんになり、17 歳で２度目の手術を受けました。これまで何が起きているのか良く分からず、自分の考えや性格、将来の夢、まだはっきりしないうちに、全てが変わってしまいました。だから私には将来自分は何をしていいのか良く分かりません。恋愛も、結婚も、妊娠も、私にとって縁のないものだと思っています。私にとって高校生活は青春を楽しむというよりは、安定した将来のため大学進学のための学校推薦をもらうための場です。友だちの関わりも、深いつきあいは面倒なので距離をおいています。それでも時々、勉強に対するプレッシャーや将来への不安で眠れないことがあります。18 歳になり医療保険に加入できない場合、医療費はどうなるのか、病気が悪化したとき生活はどうすればいいのか本当に不安です。

精神面でも不安があります。半永久的に薬を飲まなければならず、何とも言えない不安があります。

この裁判で、将来、安心して生活できる補償を求めて欲しいのです。これが私の全てです。

第一原発１号機の内部調査データで試算

440ガル震度６強で崩壊の可能性あり！技術者警鐘

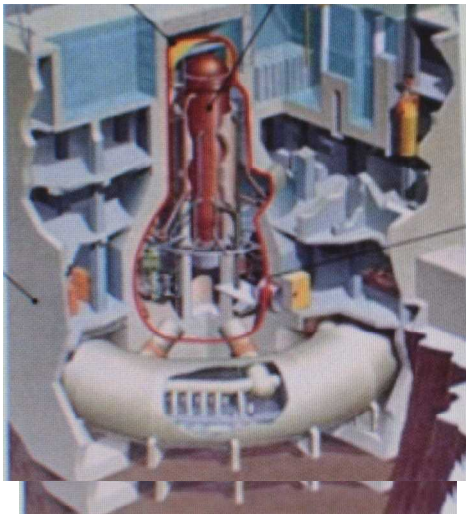
今、第一原発で様々な問題点が浮き彫りになりつつある。それは５月段階で調査した（資料２）「ペデスタルが地震によって崩落しかねない危険性があ」ると技術者が主張している。

使用済み燃料プール1500㌧が倒壊の可能性！

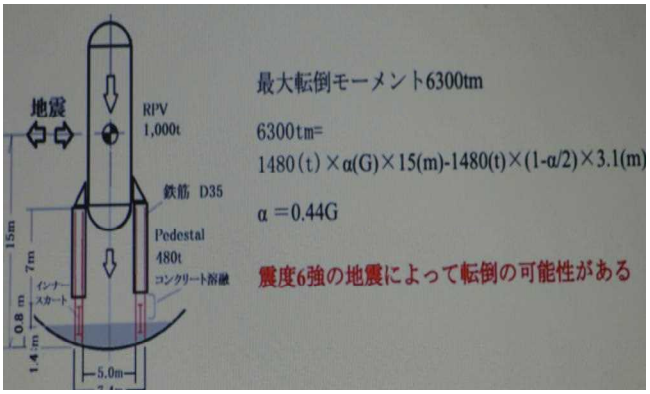
それは、既報 No246・同 247 で取り上げて来ているが、これを主張したのが重森晴雄氏 [1] である。８月１３日開催された、主催「福島事故対策検討会」の重森氏による「東京電力第一原発の現状把握と緊急対策」のＺＯＯＭ会議からその概略を伝えたい。

さて、このテーマは８月９日の「エネルギー資源学会」で発表しています。

また、東京電力は６月に格納容器内の内部調査を実施したので、その調査データにより当方で独自に耐震調査をしました。



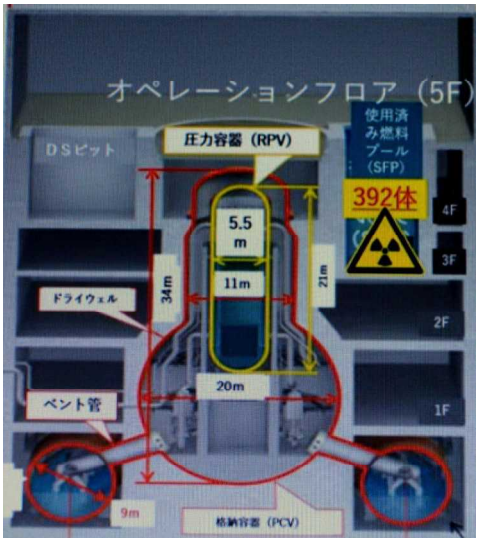
（資料２）　テベスタルの個所



（資料３）　転倒する可能性がある水平加速度試算である

毎年のように3.11大震災の余震が襲う！

その結果（資料３）にあるように 440 ガル（地震の加速度を表す単位）や震度６強の地震によって崩壊の可能性がある。それは「水平加速度試算」等によって指摘できます。



（資料４）　原子炉建屋 内部の様子

更に（資料４）の約 1,500 ㌧の圧力容器が地震のために大きく揺れる。加えて、右上にある 392 体が入った「使用済み燃料プール」長さ 30 ㍍、重さ 1,500 ㌧、１㍍の壁があるけれど、一瞬のうちに破壊される可能性がある。原子炉の壁があっても持たないでしょう！　ビルの解体現場にある破壊する玉…あれが１㌧に過ぎないと考えると建屋ビルの壁の厚さでは持たないでしょう！

以上が、講演の最も重要な点を取り上げたものである。第一原発周辺では毎年のように 3.11 大震災の余震が起きている。

重森　晴雄氏　[1]

東京電力福島第一原発、現状把握と緊急対策

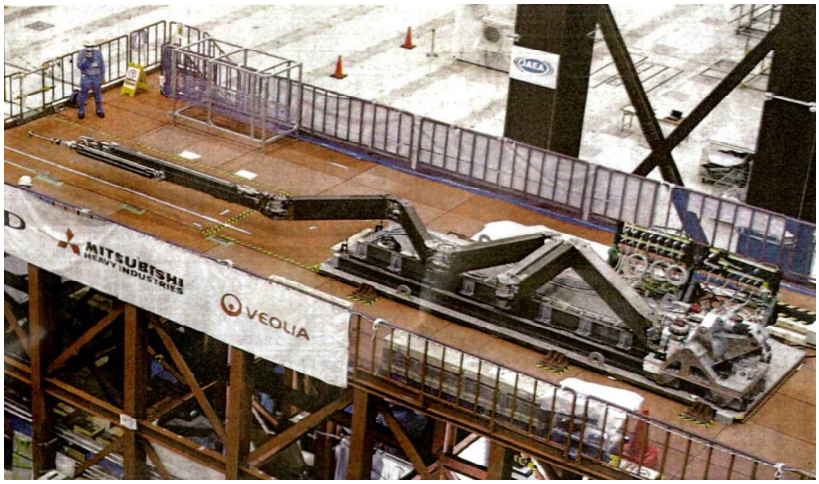
・主催 福島事故対策検討会 Zoom オンライン学習会
・1979 年 名古屋大学工学部原子核工学卒業
・1981 年 大阪大学工学部土木工学科卒業
・1981 ～ 2004 年 元 三菱重工（株）に入社
・2020 年（株）きたむら研究開発部長

２号機 デブリを取り出し
年内の開始を断念 2023年後半に延期と発表！

東電は先月 25 日、第一原発２号機のデブリ取り出しの年内開始を断念すると発表した。取り出しに使う装置の開発の遅れや建屋格納容器周辺の設備が壊れたトラブルが原因としている。

余りに巨大すぎるロボットアーム！

（資料５）の２号機、燃料取り出しのロボットアームを見て欲しい！左隅の社員の姿と比較すると、その巨大さに圧倒される思いである。しかし、実際は 800 ﾄﾝ以上あると言われるデブリを数グラムこそげ取ることを東電は「取り出し」と言っているに過ぎない。(注１)



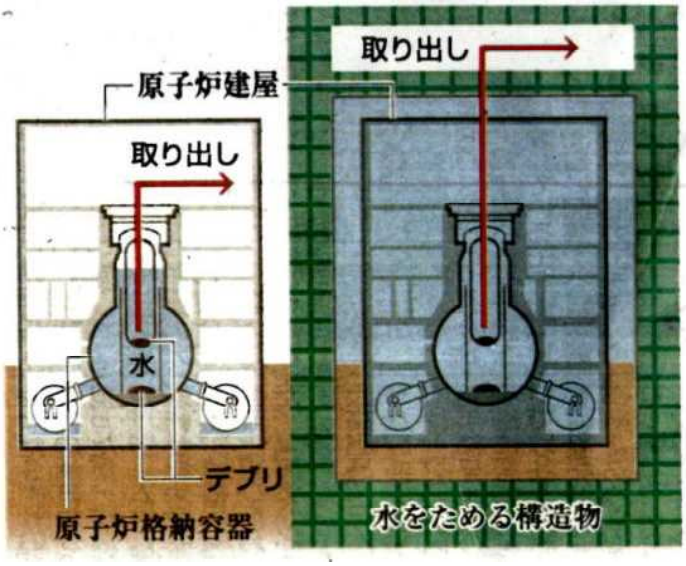
（資料５） 第一原発２号機でデブリ取り出しに使うロボットアーム

これは国民全体を「廃炉行程は順調に…」と思わせるミスリードそのものであると言わねばならない！東電と政府の主張は根拠のない工程表を示し、さも堅実に進んでいると見せかけるだけである。

実態は次々と難題が押し寄せ「検討します！の繰り返しで時間だけが過ぎて行く…」等と討論されている。(注２)

（資料６）にしても同様である。原子炉建屋は幅 46 ﾒｰﾄﾙ、高さ 30 ﾒｰﾄﾙ、それも３基である。

それを「水をためる構造物」を造るというが「地下水を遮ることさえ出来ない現状をどう見ているのか？」である。



（資料６） 左がこれまで計画したもので 右が新たな計画

特に、今回の記者発表で「2022 年から 2023 年後半に再延期する」という判断は、当初計画していた「格納容器ペネから横アクセス」する手法も

放射線被ばくの現状に計画倒れの現実…

断念したようだ。その理由として二つある。

①取り出しに使うロボットアームと呼ばれる大型機器制御ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑに改良すべき点があった。

②格納容器から放射性物質を漏れないようにする「隔離部屋」が損傷するトラブルがあった。従って「安全と確実性を高めるため」と話している。なにせ（資料5）のロボットアームは素人目でも余りに巨大過ぎる。

これまでの試験を見ると 10 分の 1 程度のロボットアームだったのだ。

また「隔離部屋」は、それだけ凄い放射線が充満する個所であることを示している。

ちなみに「ALPS 多核種除去設備の運転に伴うリスク評価」(注３)では「制御室は多核種除去設備設置エリアより約 900 ﾒｰﾄﾙ離れた距離に設置すること…」となっている。900 ﾒｰﾄﾙとは驚くばかりである。

次々と計画した内容が実行されないまま次の計画が持ち上がる。これは廃炉現場の放射線が作業するのさえ困難な事態に直面していることである。「検討します！」と言いながら…何もしないのだ！

第45回県民健康調査検討委員会

UNSCEAR報告の根拠に疑問符！甲状腺がん多発の現実を見よ！

斉藤章一

9月1日開催の県民健康調査委員会では小児甲状腺がん患者が326人と報告された。　また、UNSCEAR2020報告で甲状腺ヨウ素被ばく量を半分に減らした根拠などについても議論された。

甲状腺がんはヨウ素による内部被ばくが大きな要因とされている。不可解なことに対象となる子ども達の被ばく量はUNSCEARが算出した地域毎のザックリとした推定被ばく線量を採用し、更にこの推定ヨウ素被ばく線量が2020報告では半分にされた。

（資料８）UNSCEAR報告の位置づけを答弁する高村座長

「甲状腺検査評価部会」鈴木元部会長の説明によると日本人のヨウ素の取り込み率が欧米人の半分程度ということからではないかという。

ところがこのデータは40～50年も前の研究による大人のデータで、世界中どこにも感受性の強い子どもの実験データはないという。これで科学的裏付けがあるといえるのか。

内部被ばくは同じ地域にいても食べ物や行動などにより大きく変わってくる、浪江町南津島の菅野みずえさん[注6]　は避難者を受け入れた際に畑の野菜を取ったり買い物等で何度も外に出た。そして推定1000mSv（10万cpm）を超える被ばくをし、後に甲状腺がんを発症した。被ばく量は本来個々人に調査すべき事である。なぜか県は外部被ばくのみの推定値しか算出していない。県が行った行動調査はそのためではなかったのか。既号229，239，240号で指摘しているように県は事故前から内部被ばく対策として避難者のスクリーニング手順書を作成しており100mSvを超えそうな人を見つけ除染・精密検査・検査証の発行などを決めていたが、基準を超える避難者が多数だったこと、除染のためのお湯や設備がなかったことから、その基準を10倍に変え大多数の被災者の記録は残さなれなかった。つまり1000mSv（1歳児換算）の被ばくが推定される人だけ記録に残したのだ。（それでも記録に残された人数100～1000mSv未満：901人、1000mSv以上：109人、この事実が無視されている）

また子どものスクリーニング検査はわずか1080人ほどで、検査方法にも問題があり、充分なデータを集めなかった。その上でのUNSCEAR任せである。健康調査検討委員会では「被ばく線量が低く放射線の影響は今のところ考えられない」としているが、こんな調査で内部被ばくの推定値が科学的な裏付けといえるだろうか。

委員会終了後の記者会見で社会新報記者は「環境省の委員が、「UNSCEARが放射線の影響は考えにくいと言っている。子どもの甲状腺検査は見直した方がいい」などという断定的な発言について、委員会ではUNSCEARの報告をどう位置づけるのか？委員会は福島の現状を調査しその調査結果に基づいて判断するのではないのか？」と質問した。

それに対して高村座長は「UNSCEARの役割はこれまでの科学的知見をとりまとめコンセンサスが取れているものを社会に提言していくのが役割。委員会では国際機関の意見を踏まえながら、県民の健康を守る・不安に寄り添うと言う本来の目的があるので、UNSCEARの意見も参考にしながら進めていく考えである。」と答えた。

福島の原発事故はチェルノブイリの事故に続く第2の世界的な放射能大量放出事故だ。その影響は新たな現実として科学的に調査・研究されるべき問題である。人間の被ばく影響についての科学的知見は広島・長崎の被ばく調査・研究が基礎になっているが、残念な事に放射能被害をなかったものにしたい米国によって科学がねじ曲げられてきた歴史があり、それが現代まで引き継がれている。福島の経験はそれを許してはならない。

再開後 第68回 東電交渉
ペデスタル基礎が崩壊 耐震性不安の思いを語る ！

９月 21 日、いわき市で再開後 68 回目の東電交渉が行われた。質問項目は左下の通りであった。

素人では分からない説明が多すぎる！

交渉内容

1. 理解と合意なき汚染水海洋放出設備工事の６月着工の中止を求める。

①希釈設備の損傷対策、地震動で自動停止する、放出の速やかな停止、電源遮断で自動閉塞するのか？

②配管のポリエチレン管、炭素鋼、ＳＵＳなどの経年劣化対策は？

２．海洋処分の説明会の開催について、県民を対象に処分に関する説明会を開催すること。

①「あらゆる機会」と言うが本当の声を聞いているのか？信頼度はゼロである。上部と相談して再回答を求める。

３．汚染水対策について、地下水の止水、トリチウム分離技術の実用化、大型タンク長期保管案やモルタル固化保管案などの検討など、汚染水についての抜本対策を早急に確立すること。

①トリチウム年間 22 兆ベクレルという放出量は、サブドレン、地下水バイパスなども含めるのか？

４.ALPS 多核種除去設備の放出設備の全体像のシミュレーションについて

①本当に原発周辺２～３㌔に留まるのか？日本近海の重要な４海流の現実を無視した暴論ではないか？（脱原発情報 No244）

②海流の条件を無視したシミュレーションではないのか、生物濃縮は年々増えていくのではないか？

５．その他

①クロスフィルターの白濁、その後どうなっているか？

②東電社員アンケートで３分の１が「やり甲斐を感じない」との回答をした問題について。

③第一原発１号機のペデスタルと水位低下について。

以上

・1 の①について

（東電）～手渡した「ALPS 多核種除去設備及び関連施設の新設について」(2022.2.25・24 頁）の「緊急遮断弁の仕様」を見て欲しい。この弁は人の手を借りずに遮断するものである。また異常緊急事象についても自動作動又は運転員の操作により、速やかに海洋放出を停止するものである。

科学的データを示さず安全、安全とは？

・1 の②について

（東電）～経年劣化現象は自然現象に配慮する基本方針に基づき行っている。

（諸団体）～「自然現象に配慮する基本方針」だと言うが、東電は、これが全く駄目だったから今があるのではないか？いい加減なことは言うべきではない！

・２の①について

（東電）～政府の基本方針を踏まえた対応を徹底すると共に処理水の性状やトリチウムについて海水モニタリングや工事の進捗、海洋生物の飼育状況について新聞広告や特設サイトで、様々なチャネルを通じ広く国内外に情報を伝え進めている。

（諸団体）～一方的に情報を流すだけで、理解を深める努力はしていない。説明会を開くことは全く疎外されている。12 年前に県民の話を聞かないでブルーサーマルを導入し、その時、地震随伴事象津波を無視してやったから、今があることを反省すべきだ。同様の事をしている。再回答を求める。

・３の①について

（東電）～年間 22 兆ベクレルの放出限度にはサブドレン、地下水バイパス（0.2 兆ベクレル）も含まれる。

（諸団体）～全ての放射性物質の総量を公開すべきだ。

（東電）～年度末に公表することにしている。

（諸団体）～東電発行の書類を見て欲しい。A は日々発生する ALPS 処理水。B 貯蔵されている同処理水のどちらから排出するのか？大熊双葉両町に説明したのか？

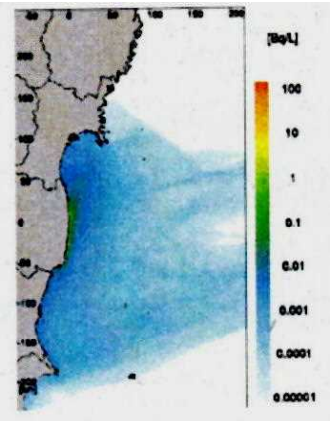
（東電）～ A、B を併せて放出する。両町問題は把握していない。

（諸団体）～両町に聞いて欲しい。

・４の①について

（東電）～トリチウムを連続放出していることから直後は発電所近傍の濃度は高くなる。

0.1 ベクレル／㍑を超える範囲を２～３㌔範囲で説明したものである。（資料９）放出されたトリチウムは濃度が問題であり、福島県沖に留まらず広く拡散する。



（資料９）平均トリチウム濃度問題である。（下限 1 × 10^{-5} Bq/㍑まで図示）

（諸団体）～これは既号 244 号で誤りを指摘した後 2022 年５月の資料で宮城県や茨城県の漁民に伝えたらもっと激しく反対されるだろう。

・その他の①について

（東電）～**「増設 ALPS クロスフローフイルター不具合事象について」**について。

（諸団体）～この説明は分からない。「白濁」「真水」更に「泥水」の３つのサンプルが何故出来たのか？何が原因なのか…を聞きたいのだ！

（東電）～次回にしたい。

・その他の②について

（東電）～アンケート回答者の状況によるものと考えられるので一概には言えない。

（諸団体）～随分簡単な説明だ。2020 年と 2021 年でどれだけの人が退職したのか？

（東電）～手元に資料がないので答えられない。

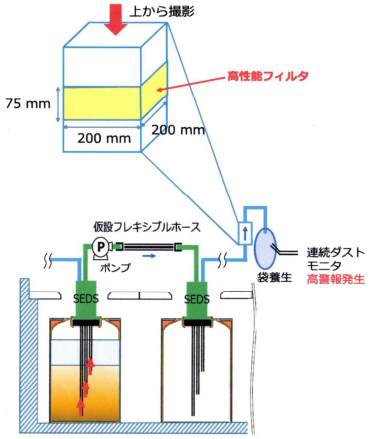
（諸団体）～社員３分の１が「やり甲斐を感じない」と回答している。普通の会社なら大問題だ。

（東電）～次回に答えたい。

・その他の「事前質問」のない問題について。

・規制庁の「スラリー安定化処理設備に関する審査上の論点」について。

（諸団体）～ここに第 102 回特定原子力・評価検討会で出された規制庁の〔資料２－１〕「スラリー安定化処理設備に関する審査上の論点」(2022.9.12) がある。その「論点」には**①スラリーの安定化処理施設の実現性② HIC 保管量のひっ迫③耐震クラス分類④放射線業務従事者の被ばく管理**の４つが提示されている。上から順に**「ストロンチウム 90 が大部分で移し替えは出来ていない」「HIC 保管量が３年以内でひっ迫する」「通常の実用原子炉ではなく非秘封の燃料加工施設の耐震クラスで行うべきだ」「敷地のダスト舞い上がりで原発の全面マスク着用上限濃度を超える可能性が高い」**特に「ALPS 多核種除去設備エリアは制御室が約 900 ㍍離れた場所に置け」(注４)となっており、人が作業できるような場所ではないことを示している。（資料 10）のように HIC の移し替え作業が出来ず、二次処理が出来なくなる可能性がある。



（資料 10）既報 239 の資料に掲載された左の HIC から右の HIC への移し替え作業、これがダメになった。

（東電）～規制庁に説明した内容と同じになる。

（諸団体）～東電は「二次処理は出来る！」と言うのだから、それを分かるように話して欲しい。

（東電）～分かった。

・原子炉を支えるペデスタルの下部が損傷してする問題について。

（東電）～資料で示したように倒壊の可能性はないと判断している。

（諸団体）～この問題を調査している技術者が学習会で 440 ガル、震度６強で崩壊する可能性があると言い、更田規制委員長も「地震で耐震懸念」と語っている。データを示さないで安全はない。再回答を求める。　　以上

出典　文献

・（資料１）311 甲状腺がん子ども支援ネットワーク・（資料２~４）重森晴雄氏・東電第一原発　現状把握と緊急対策・（資料５~６）東京電力・国際廃炉研究開発機構・IRID・三菱重工・福島民報 2022.9.18・（資料７）our・planetTV・（資料８）・（資料９~１０）東京電力 HD（注１）木野龍逸氏・科学 2022・４月号「燃料デブリ取り出し」？実態と乖離のゆくえ・（注２）第 102 回特定原子力施設監視・評価検討会・（注３・４）東京電力多核種除去設備運転に伴うリスク８頁

裁判を支えて下さい！

若人は夢を見るのが特権である…それを思う前に甲状腺がんになってしまった！

311 子ども甲状腺がん裁判　寄付金振込先

・郵便振替　記号：00170-7　番号：0393240

口座名：　311 甲状腺がん子ども支援ネットワーク